

推定交通量及びその算出の基礎を記載した書類

## 第1. 推定交通量

一般国道201号（八木山バイパス）の年度別推定交通量は、別表1のとおりである。

## 第2. 推定交通量算出の基礎

### 1. 推定方法の概要

交通量の推定方法は以下のとおりである。

- (1) 平成22年度全国道路街路交通情勢調査に基づき現在のゾーン間交通量を国土交通省が作成。（現在OD表の作成）
- (2) 現況交通量データ及び将来社会経済フレーム等に基づき、国土交通省が将来（令和12年）のゾーン毎の発生・集中交通量を予測し、将来道路網等を想定して将来のゾーン間交通量（将来OD表）を作成。国土交通省が作成したゾーンごとの現況及び将来（令和12年）の発生・集中交通量等を基に、各年度のゾーン別発生・集中交通量を設定する。（将来発生・集中交通量の算定）
- (3) 設定した各年度の発生・集中交通量を基に、推計年次における高速道路整備による時間短縮効果を考慮して、推計年次におけるゾーン間の交通量分布を予測する。（分布交通量の算定）
- (4) 一般道路を利用した時の走行時間と高速道路料金を加味した高速道路を利用した時の走行時間とを説明変数とした交通量配分（高速転換率式併用利用者均衡配分）モデルにより将来高速道路利用交通量を推計する。（配分交通量の算定）
- (5) 令和8年度以降令和11年度までの予測交通量は、前年度の予測交通量に国土交通省が推定した全国自動車総走行台キロの伸び率を乗じて算定。令和13年度以降の予測交通量は、令和12年度と令和15年度及び令和15年度と令和32年度の高速道路の総走行台キロの伸び率を基に算定。

### 2. 推定交通量の算定

#### (1) 現在OD表の作成

平成22年度全国道路街路交通情勢調査に基づき国土交通省が作成した現在OD表を使用。

(2) 将来発生・集中交通量の算定

国土交通省作成の現在OD表及び将来OD表等を基に、各年度のゾーン別発生集中交通量を設定。

(3) 分布交通量の算定

各年度の道路網から道路整備を考慮した時間距離を算出し、複数年次における時系列変化を反映したグラビティモデル（時系列モデル）によりOD間の分布交通量を算出する。

$$X'_{ij} = X_{ij} \left( \frac{G'_i}{G_i} \cdot \frac{A'_j}{A_j} \right)^\beta \cdot \left( \frac{T'_{ij}}{T_{ij}} \right)^{-\gamma} \left( \frac{\sum_k A_k \cdot T_{ik}^{-\gamma}}{\sum_k A'_k \cdot T'_{ik}^{-\gamma}} \right)^\theta$$

$X'_{ij}$  : 将来  $ij$ ゾーン間の推計分布交通量

$A_j$  : 基準年  $j$ ゾーンの集中交通量

$X_{ij}$  : 基準年  $ij$ ゾーン間の分布交通量

$T'_{ij}$  : 将来  $ij$ ゾーン間の時間距離

$G'_i$  : 将来  $i$ ゾーンの発生交通量

$T_{ij}$  : 基準年  $ij$ ゾーン間の時間距離

$G_i$  : 基準年  $i$ ゾーンの発生交通量

$i,j,k$  : ゾーン

$A'_j$  : 将来  $j$ ゾーンの集中交通量

$\beta, \gamma, \theta$  : パラメータ

(4) 各推計年次のOD表を基に、高速転換率式併用利用者均衡配分手法を用いて交通量配分を行い、将来高速道路利用交通量を算出した。

イ 交通量配分に用いた転換率は、各ゾーン間について、一般道路を利用する場合と有料道路を利用する場合との、それぞれの所要時間および有料道路の通行料金を用いて、これらを次の式に適用することによって算出した。

【転換率式】

$$P = \frac{1}{1 + \exp\{\lambda(V_{rs}^G - LS_{rs}^E)\}}$$

- P : 転換率
- $V_{rs}^G$  : ODペアrs、一般道利用ルート<sup>の効用</sup>  
 $V_{rs}^G = \beta \cdot T_{rs}^G + \gamma_0 + \gamma_1 \cdot D_{rs} + \gamma_2 \cdot D_{rs}^2 + \gamma_3 \cdot D_{rs}^3$
- $LS_{rs}^E$  : ODペアrs、高速道路利用ルート<sup>のログサム効用</sup>  
 $LS_{rs}^E = \ln \sum_{k \in K_{rs}} \exp(V_{rs}^k) \quad V_{rs}^k = \alpha F_{rs}^k + \beta T_{rs}^k$
- $V_{rs}^k$  : ODペアrs、高速道路利用ルートk<sup>の効用</sup>
- $F_{rs}^k$  : ODペアrs、高速道路利用ルートk<sup>の料金</sup>
- $T_{rs}^k$  : ODペアrs、高速道路利用ルートk<sup>の所要時間</sup>
- $T_{rs}^G$  : ODペアrs、一般道利用最短ルート<sup>の所要時間</sup>
- $D_{rs}$  : ODペアrs、一般道利用最短ルート<sup>のトリップ長</sup>
- $\alpha, \beta, \gamma, \lambda$  : パラメータ

この算出において使用したパラメータは、平成22年度全国道路街路交通情勢調査の結果から算出。

ロ ICペアへの配分

求められた高速道路への転換交通量を、下式のICペア分担率式を用いて交通量配分を行った。

【ICペア分担率式】

$$P_{icp} = \frac{\exp(V_{ers}^k)}{\sum \exp(V_{rs}^k)}$$

- $P_{icp}$  : ICペア分担率
- $V_{rs}^k$  : ODペアrs、高速道路利用ルートk<sup>の効用</sup>

(5) 料金割引などによる交通動向の変化を過去の傾向などから推定し、上記(4)で算出された転換交通量に加算する。

### 第3. 推定交通量算出のための設定条件

#### 1. 基礎データ

##### (1) 現在OD表及び将来OD表

平成22年度全国道路街路交通情勢調査結果に基づき国土交通省が作成した現在OD表及び将来OD表を用いた。

##### (2) 全国将来自動車交通需要

平成22年度全国道路街路交通情勢調査結果に基づき国土交通省にて算定された値を用いた。

年度	H22	R2	R12	R32
走行台 <sup>※</sup> （全車） （10億台 <sup>※</sup> ／年）	708	706	687	585

##### (3) 道路整備状況

各年度の推計にあたり、新規開通道路の完成予定時期を以下のとおり設定した。

##### イ 会社が新設又は改築を行う高速道路

別表2のとおり。

##### ロ その他の高速道路

別表3のとおり。

##### ハ 一般道路等

令和12年度までに完成することが見込まれている道路については、その完成予定時期を基本とした。

現在事業中の道路で完成予定時期が明らかでないものについては、令和12年度の完成と想定した。

なお、完成予定時期は、現時点での用地買収状況や工事進捗状況等を踏まえて設定したものであり、今後の用地取得の状況等を踏まえて変更の可能性がある。

別表1 年度別推定交通量

年度	交通量 (百万台キロ)	年度	交通量 (百万台キロ)
令和7年度	88	令和20年度	89
令和8年度	88	令和21年度	88
令和9年度	88	令和22年度	87
令和10年度	87	令和23年度	86
令和11年度	87	令和24年度	84
令和12年度	101	令和25年度	83
令和13年度	100	令和26年度	82
令和14年度	97	令和27年度	81
令和15年度	96	令和28年度	79
令和16年度	94	令和29年度	78
令和17年度	93	令和30年度	77
令和18年度	92	令和31年度	76
令和19年度	91	令和32年度	37

別表2 会社が新設又は改築を行う高速道路

《新設区間》【高速自動車国道】

路線名		区間名	延長 (km)	完成予定 年度	備考
近畿自動車道	名古屋神戸線	大津JCT～城陽IC	25.1	R5	
		八幡京田辺IC～高槻第一JCT	10.7	R5	
中国横断自動車道	姫路鳥取線	播磨新宮IC～山崎JCT	11.4	R3	
四国横断自動車道	阿南四万十線	徳島東IC～徳島JCT	4.3	R3	
		計	51.5		

《新設区間》【一般有料道路】

路線名		区間名	延長 (km)	完成予定 年度	備考
一般国道2号 第二神明道路		永井谷JCT～石ヶ谷JCT	6.2	R6	
一般国道24号 京奈和自動車道		木津IC～奈良IC	6.1	R14	
一般国道24号 京奈和自動車道		奈良IC～郡山下ツ道JCT	6.3	R9	
一般国道1号 淀川左岸線延伸部		門真JCT～門真西	1.1	R13	
		計	19.7		

(未供用区間の連絡等施設名については仮称)

※完成予定年度は、現時点での用地買収状況や工事進捗状況等を踏まえて設定したものである。よって、今後の用地取得の状況等を踏まえて変更の可能性がある。

《四車線化・拡幅等》【高速自動車国道】

路線名	区間名	延長 (km)	完成予定 年度	備考	
近畿自動車道	名古屋神戸線	甲賀土山IC～大津JCT	28.5	R8	6車線化
	松原那智勝浦線	御坊IC～印南IC	9.8	R3	
	敦賀線	福知山IC～綾部IC	10.2	R2	
九州横断自動車道	長崎大分線	長崎IC～長崎芒塚IC	3.0	R3	
	計	51.5			

《四車線化・拡幅等》【一般有料道路】

路線名	区間名	延長 (km)	完成予定 年度	備考
一般国道42号 湯浅御坊道路	御坊IC～有田IC	19.4	R3	
一般国道31号 広島呉道路	坂北IC～呉IC	12.2	R10	
一般国道10号 隼人道路	隼人東IC～加治木JCT	7.3	R6	
一般国道497号 佐世保道路	佐々IC～佐世保大塔IC	16.9	R9	
一般国道201号 八木山バイパス	篠栗IC～筑穂IC	5.7	R6	一の路線
	筑穂IC～穂波東IC	7.6	R11	一の路線
	計	69.1		

※完成予定年度は、現時点での用地買収状況や工事進捗状況等を踏まえて設定したものである。よって、今後の用地取得の状況等を踏まえて変更の可能性がある。



《追加IC》【高速自動車国道】

路線名		箇所	延長 (km)	完成予定 年度	備考
中央自動車道	西宮線	京都南JCT	—	R10	改築
山陽自動車道	吹田山口線	瀬戸JCT	—	R4	新設
		五日市JCT	—	R7	改築
四国横断自動車道	阿南四万十線	高知IC	—	R2	改築
沖縄自動車道		幸地IC	—	R2	新設

《追加IC》【一般有料道路】

路線名	名称	延長 (km)	完成予定 年度	備考
湯浅御坊道路	川辺IC	—	R3	改築(フル化)

(未供用区間の連絡等施設名については仮称)

※完成予定年度は、現時点での用地買収状況や工事進捗状況等を踏まえて設定したものである。よって、今後の用地取得の状況等を踏まえて変更の可能性がある。

別表3 その他の高速道路

(1) 阪神高速道路(株)

《新設区間》

路線名	区間・箇所	延長 (km)	完成予定年度	備考
大阪市道高速道路淀川左岸線	海老江JCT～豊崎出入路	4.4	R8	(阪神高速道路(株))
大阪府道高速大和川線	鉄砲出入路～三宅西出入路	7.7	R1	(阪神高速道路(株))
大阪府道高速大阪池田線(改築)	信濃橋渡り線	1.7	R1	(阪神高速道路(株))
一般国道1号 淀川左岸線延伸部	門真西～豊崎出入路	7.6	R13	(阪神高速道路(株))
一般国道2号大阪湾岸道路西伸部	六甲アイランド北出入路～駒栄出入路	14.5	R13	(阪神高速道路(株))

(未供用区間の連絡等施設名については仮称)

※完成予定年度は、現時点での用地買収状況や工事進捗状況等を踏まえて設定したものである。よって、今後の用地取得の状況等を踏まえて変更の可能性がある。